

# 涸沢岳 西尾根

残雪期登山

2022年04月16日(土), 17日(日)

L: 坂野、犬山、宮本、桐林

4月16日朝2時手前に浜松を出発。松本ではなく伊那で降り、国道と県道を行き、梓湖へ出た。車がほとんどいず、快適だった。7時前に新穂高に到着。7時20分ごろ小雨の中、登山口センタを出発した。右俣林道の雪は、牧場まで途切れているところがあるが、それ以降は繋がっていた。白出沢を通り過ぎすぐに尾根に取り付く。ピンクリボンが豊富にあり、間違えることはない。



尾根の登り始めは、藪から

始まり早々、藪から始まった。例年よりも雪がなく、今年初、笹の洗礼を受けた。帰りでは避けながら降りることができた。アスレチックな場所が出てくるものの黙々と進んだ。15時過ぎに幕営地を・2198mよりも下部に求めた。途中の1700mほどにテントがあったが、その持ち主たちが降りてきた。西日本の4人パーティで登頂ができなかったようだ。雨から始まり、雪に阻まれて帰って

きたことを聞かせて頂いた。16時にはテントに入った。

翌日は3時起床5時すぎに出発。霧に包まれ景色が見えず、ただ前進あるのみ。当初の予定幕営地2400mに適当な平らな場所があった。例年はそこで張っているようだ。それ以降はあるものの、風が強い悪天候時に苦勞する。木が疎になり急登をゆくと、雪稜へ出る。その後記録によく見る古いフィックスロープの2段の岩場がある。遠くから見るとドキドキするが、近づけば階段状になっている。それを越え雪稜を歩くとなだらかなピークの蒲田富士（カマタフジ）へ出た。ここまで霧の中でどこの山域にいるか実感できなかったが、30分だけ山の大きさを見れた。これだけで報われる。その後、淡々と降り、暗くなる前に登山センタに辿り着いた。

(桐林 記)



蒲田富士より、涸沢岳現れる